


水清に
月が
鳴る


SHIGUNYAN
Kaede&Makoto
<http://prinprin.cool.ne.jp>

For Adults

A black and white photograph capturing a serene scene of a moon reflected in water. The moon is positioned in the upper right quadrant, its light creating a shimmering, circular reflection on the water's surface. The water is textured with ripples, and the overall scene is framed by the dark, silhouetted branches and leaves of a maple tree, which are visible in the top, bottom, and side edges. The lighting is soft, creating a tranquil and atmospheric mood.

水面に映る月のごとく
その姿照り輝きたる

前記



楓：どうも皆様こにゃにゃちわ。かえでです。
真：まことです。一日中寝ていたい今日この頃です。
寝ても寝ても眠たい。
楓：飼い猫の“しぐ”もグニャグニャです(笑)。
気合い入れろよてめーら。
真：むにゃむにゃ……。……………
……………**あんぞーーッ!!!!!!**……………むにゃむにゃ…。
楓：もう帰りません。
真：ああっ!ど…どこへ行くのよ!!アンタ!!
眠りながらもちゃんと気合い入れたじゃないの!!
楓：あんまりリキむとチビるよ。もう若くないんだから。
真：そうね~~~。
じゃあお茶でもすすりながら本文へどうぞ~~~。

Presented By
SHIGUNYAN
Kaede & Makoto

Nakoruru Book No,03
Kiyoki Mizuni
Tsukiga Naku



まだ
着かないの？

うくん…
確かこの辺りだと
思ったんだけど…

もう夜に
なっちゃった
わよ…

リムルルウ

………
ごめんなさい…

いいのよ

私に綺麗な湖を
見せたいって

その心使いが
嬉しいわ

ちゅっ

姉さま…

!?

ヒクッ

な…何？
何かある…ッ!?

お姉さま…
日が暮れ出した
時から…



ふるっ
ふるっ

なんだか…体が
おかしくて…



リ…リムルル!?
信じられない…

これは…私…
ゆ…夢を見ているの!?



夢を見させて
それを食らう
精霊の仕業かも
しれないです…

そしてこれは
きっと私が
望んだ夢…

私…ずっとずっと
姉さまの事が
好きだったから

ずっと姉様と
ひとつになりた
かったから…



ん...

ね...
姉さまッ!

ビクッ!

キヤッ!

リムルル...

私の為に
こんなに立派な
モノを生やして...

なんて
えっちな子...

すっ...
気持ち...イ...

あッ♡

ガッ
ガッ

私も
姉さまの
舐めさせて

姉さま...

はあ

ビクッ

あぁっ!!

ビクッ
ビクッ
ビクッ

あぁっ!!
あぁっ!!
あぁっ!!



姉さま…
もっとお…
姉さまあ…

ん…
分かってる…
入れたいのね



姉さま…
イってくれた
んだ…♡

はあ

はあ



リムルルも…♡
ん…美味ひいよ

あッ
そんな…
敏感なのに…
ダメえッ!…

イイよ…
リムルルのなら
私も欲しい…

姉さま…

私が
上になるね

はあ

はあ

私にリムルルを
受け入れさせて…

ちゅく…

ぶちゅ

あああッ!!

ビクッ

ビクッ

く入って
くるううじー!

ちゅっ

おちゅ

あッ♡

ビクッ

温か…

いい…♡

んっ

あッ

ひあッ

ぶちゅ

ちゅ ぶちゅ

おちゅ…



ぶちゅ

姉さま…
姉さまあ…ッ！

もっと！
もっとおちんちん
おまんこで
擦ってええッ！

おまんこが腫で
きゆうきゆう
締め付けて
くるよあ…ッ

ズッ

ぶちゅ

あっ
んっ♡

おちんちん
ぶちゅ



これが…ホントに
夢…なのあ…ッ！?

リムルルの
おちんちんも
すこ…いい…ッ

はあんッ

ぶちゅ

あっ♡

んっ

そんなに突き上げ
たら…お腹が
こわれ…そう…ッ！

奥に当たってる…
コツコツ当たって
気持ち…良すぎるッ！

おちゅ

ぶちゅ



気持ち
良かったよ…
リムルル

はあ

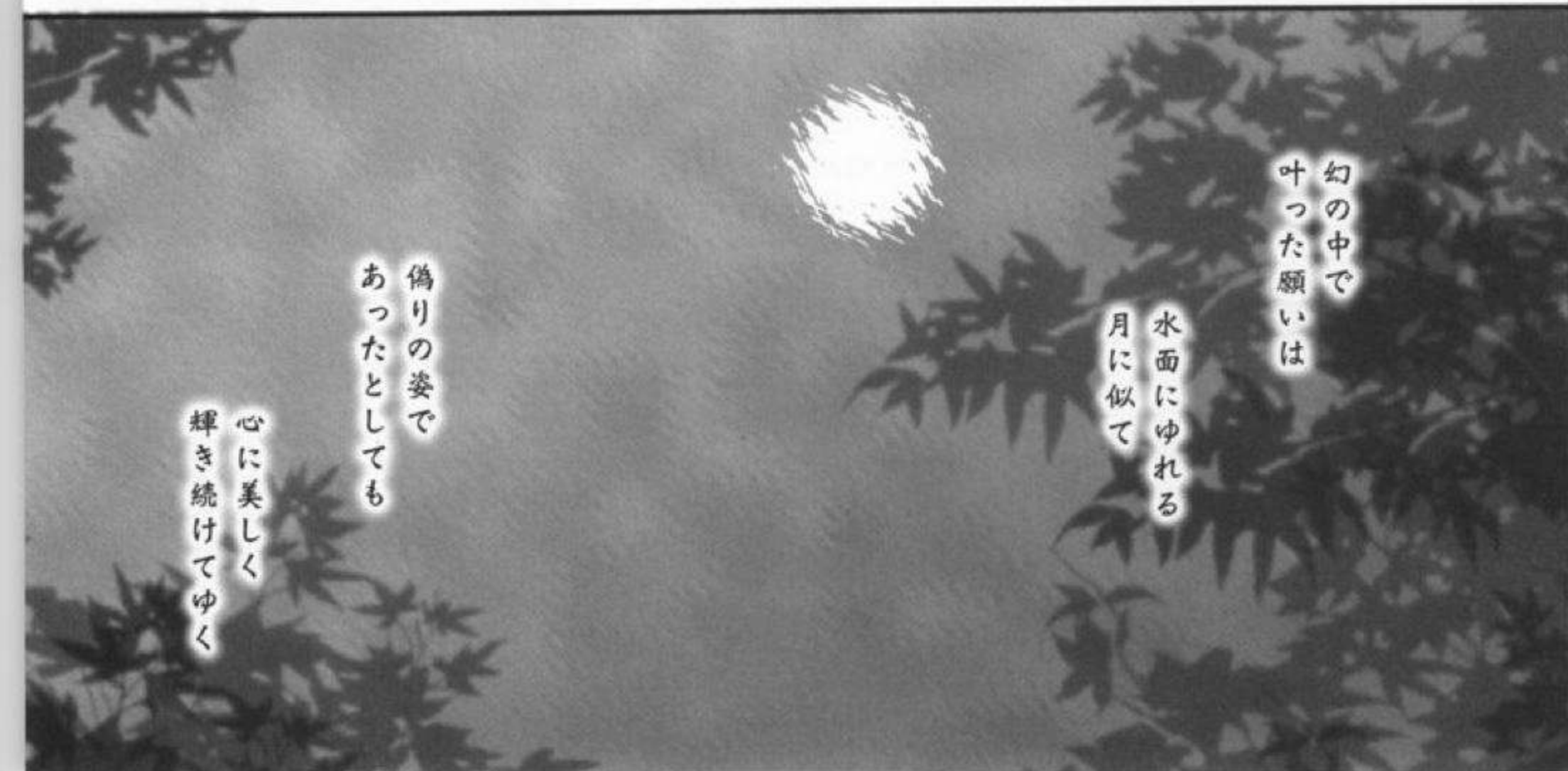
はあ

はあ

姉さま…

そして私達は その夜 愛情を確かめ合い
いつしか眠り果て 夜明けに目覚めた時には リムルルは元に戻っていた

精霊に食われ 記憶には残らないかと思われた夢は
お互いの身体に残された夢の欠片のおかげで 決して忘れる事のない思い出となった



幻の中で
叶った願いは

水面にゆれる
月に似て

偽りの姿で
あったとしても

心に美しく
輝き続けてゆく

ATTENTION!



・猫耳魔法少女・
小説 / ハーたん
500円 / B5 / 28P
巻頭4ページはフルカラー
変身魔法に失敗し身も心も猫に。
成人向



・Cute Princess・
シスタープリンセス / 花穂
400円 / B5 / 24P
巻頭4ページフルカラー
お兄ちゃまとチアの特訓。
成人向



・魔法少女恋愛論・
小説 / ハーたん
400円 / B5 / 24P
巻頭4ページフルカラー
強姦・御褒美、その真実は…。
成人向



・清き水に月が鳴く・
侍スピリッツ / ナコルル
400円 / B5 / 24P
巻頭4ページフルカラー
リムルルの愛を受け入れる。
成人向
※この本です※

★イベント限定本のお知らせ★

イベントごとにその日しか販売しない
コピー本を少部数発行しています。
B5/14P/100円の成人向本。
その日・そのイベントの1日限り
部数限定で販売。
東京・大阪の大きめのイベントに
“しぐにゃん”というサークル名で参加しています。
ぜひ一度サークルにお越し下さいませ。

■ハーたん本は書店委託を積極的に行いません。
できるだけイベントでお求め下さい。

■委託状況・在庫・即売会参加予定など活動内容は
ホームページにて詳しくご覧になれます。
※携帯からはイベント予定等のみご覧になれます。
<http://prinprin.cool.ne.jp>

■お問い合わせはこちら
shigunyan@mail.goo.ne.jp

通販ご利用方法

・下記要項を記入したメールでお申し込み下さい。
『希望品 / 希望部数 / 住所 / 氏名 / メールアドレス』
後日、郵便振替口座番号 / 通販合計金額を
メールにてお知らせ致します。
ご入金を確認後
普通郵便にて本を送らせて頂きます。

後記

楓：どーも。何かついにやってしまった感が非常に強いのですが、いかがでしたでしょうか？

真：生えたね!!!とうとう生えたね!!!

楓：ヒゲやその他の毛じゃなくて良かったよ。リムがシヨタに見えない事もない…？

真：見えなくもない。萌え。

そして今回、苦勞したのは淫文!!

楓：初小説風カラーに乾杯。文才の無さに完敗。

真：絵を描くより大変だった…。

楓：これからも色んな事にチャレンジしたいね。

真：…全ページフルカラーとか 150 ページ本とか…？

楓：ギャッ!…細々とやっていきましょう…ネ？

皆様これからもどうぞよろしくです。



ナコルル・ハーたん・シスプリで
インテックス大阪・東京ビッグサイトで
開催されるイベントに
“しぐにゃん”で参加しています。
コミケットでは“PRINCESS”
でも委託配布をお願いしています。

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://prinprin.cool.ne.jp>
“ぷりんプリンセス”

NAKORURU FAN BOOK NO.03
清き水に月が鳴く

発行日 2003年08月15日

印刷所 株式会社 栄光
<http://www.eikou.com>

著者 しぐにゃん
しぐにゃんは楓と真の二人グループ名です。

発行元 しぐにゃん

連絡先 <http://prinprin.cool.ne.jp>
shigunyan@mail.goo.ne.jp

「あ…ッああ！姉さまあ…：そんなに激しく…んっくふう…あはあ…ッ」

固く脈打ち血管が浮き出るほど猛り立ったベニスを、ナコルルが唇で締め付け吸い上げるたび、リムルルの淫らな喘ぎ声が静寂の森に響き渡った。リムルルの汗ばんだ小さな胸の突起はすでに固く、その背を弓なりに反らせている。

迷い込んだ深い森で二人の清純な少女は夢とも現実とも分からぬ事態に遭遇した。初めは信じられぬ男のモノに不安が広がっていたが、もはや味わった事のない快楽に酔いしれ、果てる事の無い欲望のままに、お互いを愛撫し続けている。

「んっんっんっんっ」

敏感な鈴口に舌を這わせ、溢れ出る蜜汁を音を立てて舐めあげるナコルル。その内股は秘裂から

溢れる愛蜜と既に放たれたリムルルの精が垂れ流れ、滴っていた。

ナコルルの生温かい唾液とリムルル自身の愛蜜で又ラリと光るベニスは、ぬちゃぬちゃと淫らな音をたてながら手で擦られ、亀頭は口の粘膜と絡み付き、舌が一番敏感な部分をくすぐながら撫でさすられる。その動きに合わせてリムルルは身を振るわせた。ナコルルはなおも激しくベニスを貪り、白い乳房がブルンと揺れる。

「もっ…もっ…あ…」と夢中でナコルルを求め、リムルルは押し寄せる官能の波にのみ込まれ、夢か現実かなどすでに頭には無く、それはナコルルも同じであった。ナコルルのぬめる花弁は待切れないかのようにひくつき、勃起した花芯の抗う事の出来ない疼きに身をよじらせた。





「ダメエ…もう…いっちゃうッッ！」
リムルルは目に涙を浮かべ叫んだ。
「イイのよ。いっぱい出して。」

射精の気配を感じてナコルルは僅かに頭を
放し、擦りあげる手の速度を速めた。

「イクッ！姉さま…いっちゃうッッ！」

ピクンとリムルルの体が大きくのけ反る
と、ナコルルの顔に向かって白濁した液が勢
い良く飛び散った。ナコルルはほとぼる精
液を大きく広げた口で受け止めたが、大量に
放たれた白い液は口から溢れて、唾液と一緒
に滴り落ちた。

最後の一滴まで搾り出すようにしごかれる
リムルルのベニスからは、なおも止めど無く
精液が出され、ナコルルの紅潮した顔を濡ら
していった。

辺りに噎せ返る様な青臭いにおいが充満し
ていく。

ナコルルは口に溜まった精液を喉を鳴らし
ながら数回に分けて飲み込んでいく。

「苦いけど美味しいよ…」

まだ精液が絡み付く喉で、少し苦しそうに
そう言うと、ナコルルはリムルルのベニスに
付いた精液を舌で舐め取った。

力無く倒れるように腰を下ろし、激しく肩
で息をしていたリムルル。射精の性で敏感に
なったベニスに再び訪れたその刺激は、気が
狂いそうな快楽となり、壮絶な疼きが身体の
中心を貫いていく。

リムルルのあとけない唇は声にならぬ声を
発するかのようにならなく開かれ、呻きの
ような切ない吐息が漏れる。

精液にまみれた顔でナコルルはやわらかに
微笑み、リムルルに懇願した。

「お願い…もう…もう我慢できないの…。ま
た、私の中にもいっぱい出して…」



NAKORURU
FAN BOOK No,03

SHIGUNYAN
KAEDE and MAKOTO
presents